

平成二十六年 度

中学校入学試験問題 国語

第一回（二月一日実施）

試験開始の合図があるまで問題用紙は開かず、左記の注意事項をよく読んでおきなさい。

- 一、問題は25ページまであります。足りないページや、印刷のよく見えないページがあったときは、手を上げて申し出てください。
- 二、解答用紙は別になっています。答えはすべてそこに記入してください。
- 三、解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。
- 四、問題用紙には、受験番号・氏名を書く必要はありません。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題の都合上、本文を変えているところがあります。*のついた説明は出題者が加えたものです。)

みなさんは有名なヘレン・ケラーのお話を知っていますか? ヘレン・ケラーは一歳七か月の時にかかった病気のために、目が見えない、耳が聞こえない、ことばを言うことができない、という、^①三重苦を背負いました。普通の(目が見えて、耳も聞こえる)赤ちゃんは言語の音を耳から聞き、その時に見ているシーンの中の何かにことばを結びつけて単語の意味を覚えるわけですよ。(それも実はそんなに簡単ではないことを後でお話しますが、それはちょっとの間おいておきましょう。)でも、目が見えない、耳も聞こえないという状況では、単語の意味を学習するのはきつと、とても難しいことですよ。

1 ヘレンは言語を習得し、大学へ行つて(今のハーバード大学です)、たくさんの著作を残し世界中で講演活動をしました。しかし、伝記によれば、ヘレンは六歳の時に一家がアン・サリバン先生を彼女の家庭教師に迎えるまで、言語というものを知りませんでした。サリバン先生が親しい友人にヘレンの教育や彼女の成長の過程を克明に綴った手紙があり、それが本になっています。日本語の訳もあります(アン・サリバン著、榎恭子訳「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」。この本に書かれている、ヘレンが指文字を通して言語を学習していくさまは、非常に興味深いものです。

2 サリバン先生がケラー家で暮らすようになったのは一八八七年三月三日のことです。サリバン先生は一生懸命ヘレンに指文字を教えようとしましたが、彼女は a 覚えなかった。それは、^②そもそも自分の指に感じる「何か」が、実はことばであつて、何かを象徴する「記号」(シンボル)だということがわからなかったからです。サリバン先生がヘレンの掌に指文字を綴ると、ヘレンはそれをおもしろがつてまねて綴り返す、そういうことをしばらく繰り返していました。この時ヘレンは、指文字があるモノや動

作と関連づけられていることはある程度理解していたようです。サリバン先生がモノを渡すと、指文字を綴る。指文字を教えはじめてからひと月足らずの三月三十一日に、ヘレンは一八の名詞と三つの動詞の綴りを覚えたことがわかったと、サリバン先生は手紙に書いています。

3 でも、この時点では指文字が「ことば」であることをヘレンは理解できていなかった。サリバン先生は、そういう b 書いている。ヘレンはケーキを見せられれば c と綴ることができました。しかし、自分でケーキが欲しい時は、「ケーキ」ということばを使わず、X で表現していたのです。つまり、ヘレンは c という単語が「ケーキというモノ」を表す記号であつて、その記号を使って「ケーキが欲しい」という自分の欲求をことばで表現できるということを理解していなかったということですよ。

4 ^③そして運命の時が来ました。「奇跡の人」という舞台や映画の有名なシーンなので、みなさんの中にも知っている人は多いでしょう。四月五日のことです。サリバン先生は井戸小屋にヘレンを連れて行き、水をくみ上げている間、ヘレンには水の出口の下にコップを持たせ、冷たい水がほとばしり、コップがいっぱいになった時、ヘレンの自由な方の手に「c (水)」と綴りました。サリバン先生は書いています。

5 「その単語が、c 彼女の手に勢いよくかかる冷たい水の感覚にとてもびたりしたことが、彼女をびつくりさせたようでした。彼女はコップを落とし、くぎづけされた人のように立ちすくみました。ある新しい明るい表情が顔に浮かびました。彼女は何度も、「water」と綴りました。それから、地面にしゃがみこみ、その名前をたずね、ポンプやぶどう棚を指さし、そして突然ふり返って私の名前をたずねたのです。私は「Teacher (先生)」と綴りました。ちょうどそのとき、乳母がヘレンの妹を井戸小屋に連れてきたので、ヘレンは「baby (赤ちゃん)」と綴り、乳母を指さしました。家にもどる道すがら彼女はひどく興奮していて、手にふれる物の名前をみな覚えてしまい、数時間で今までの語彙に三十もの新しい単語をつけ加えることになりました。」

6 この時、ヘレンに何が起きたのでしょうか。彼女は理解したのです。指文字は「ことば」で、すべてのモノには名前があり、それを表すのが「ことば」だということ。ヘレンはそれ以降どこに行っても名前を知らないモノすべての名前を知りたがり、周りの人に自分の知っていることば（綴り）を教えたがようになりました。そして、今まで使っていた合図や身振りをやめてしまったとサリバン先生は書いています。

7 「ことば」を学習することは、単にモノや動作と音のかたまり（あるいはヘレンの場合は文字）の結びつきを機械的に覚えるだけでは不十分なのです。言語をすでに身につけた私たちは、言語に関するさまざまな事実を当たり前だと思っています。「すべてのモノや動作には名前がある」「モノや動作の名前の一つ一つは音のかたまりで表される」「自分の伝えたいことは単語を組み合わせて表現することができる」というような基本的なことは、言語の役割としてほとんどの人は意識したことがないと思います。しかし、ヘレンの例は、言語を習得するためには、赤ちゃんは^④このように基本的な性質として理解しなければならぬということを私たちに教えてくれます。

8 これらのことを理解していないとほんとうの意味でことばを持つことはできないことは、チンパンジーの言語獲得の研究からもわかります。

9 チンパンジーにことばを教えようという研究が以前はかなりたくさんありました。研究者たちは人が使うような音によることばではなく、絵文字のようなものを記号として使い、リンゴやバナナや靴など、身近にあるさまざまなモノの名前を記号で教えようとしてきました。ずいぶん時間はかかりましたが、チンパンジーたちは一〇〇〜二〇〇くらいの記号をモノに対応づけることを覚えました。ただし、実験室から出た時に、人間の子どもとは違って覚えた記号を自分から使って人（自分の世話をしてくれる飼育係や研究者）とコミュニケーションをとろうとはしませんでした。「バナナちょうだい」と訴えるために絵文字を指さすなどということはしなかった

のです。

10 教えられた記号が一つ一つのモノの名前であり意味を持つものであること、記号を組み合わせて自分の意思を他者に伝えることができることなどの言語の基本的な特性を、チンパンジーはどうしても理解することができなかったのです。かたや人の子どもはとにかく「Y」しかも、ジュースが欲しい、ごはんが欲しいという欲求を伝えるためというよりは、自分の知っていることを表現し、他の人に伝えるために。ヘレンも「water 事件」の後は、どこに行っても名前を知らないモノすべての名前を知りたがり、また、周りの人に自分の知っていることば（綴り）を教えたがようになったと手紙^⑤にあります。耳の聞こえる子どももまったく同じです。

11 ヘレンのエピソードやチンパンジーに言語を学習させようとした研究の結果は、人の子どもがことばを学習するということは、単に対象とことばの間の対応づけを「Z」的に学ぶことではないことを私たちに教えてくれます。

（今井むつみ『ことばの発達の謎を解く』の文章による）

問1 ——線部①「三重苦」と同じ成り立ちの熟語を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 衣食住 ロ 新幹線 ハ 責任感 ニ 二次元 ホ 不思議

問2

a

b

c

 に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。（同じ記号は二度使えない。）

- イ かすかに ロ たまたま ハ なかなか ニ はつきり

問3 — 線部②「そもそも」を正しく使っている文を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 悪事を働いたのでそもそも罰せられる。
- ロ 朝から雨だったのにそもそも外出した。
- ハ 落ちつきなくそもそも動くのはよせ。
- ニ 暴力とはそもそもまちがった行為だ。

問4 【X】に当てはまる三字の言葉を、文章中からぬき出して答えなさい。

問5 — 線部③「運命の時」とあるが、それは「ヘレン」にとってどのようなことを理解した時だったと言えるか。それが書かれてある一文を文章中から探し、初めの四字をぬき出して答えなさい。

問6 — 線部④「このようにこと」を指している内容をふくむ一文を、これよりあとの文章中から探し、初めの三字をぬき出して答えなさい。

問7 【Y】に当てはまる表現を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 欲求を伝えたがります。 ロ 名前を知りたがります。
- ハ 言葉を教えたがります。 ニ 言語を使いたがります。

問8 — 線部⑤「手紙」は上下とも訓読みから成り立っている。次の中から同じ組み合わせの熟語を一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 客間 ロ 花園 ハ 本箱 ニ 湯気

問9 【Z】に当てはまる漢字二字の言葉を、文章中からぬき出して答えなさい。

問10 次の一文は、文章中の 1 ~ 11 のどこに当てはまるか。最も適当なものを一つ選んで番号で答えなさい。

この話は、赤ちゃんが言語を学習するために何が必要かということについて、非常に大切に深いことを教えてくれています。

問11 本文の内容に合っているものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 言語習得の本質は、ことばがモノと結びついているということだけではなく、それを用いて自分の意思を伝達するということにこそあると言っている。
- ロ ヘレンとチンパンジーとの決定的な違いは、前者が優しい先生がいつも助けしてくれたのに対して、後者は厳しい飼育員や研究者しかいなかった点である。
- ハ 合図や身振りも何かを表すという点においては言語のひとつであり、体を用いることにより絵文字や指文字よりもすぐれた意思の伝達が可能となる。
- ニ 私たちはすでに言語をよく知っているものと思いきや、ヘレンやチンパンジーのように、言語と素直すまじに向き合っていない姿勢が実は必要である。

A7

(問題は次のページに続く)

A8

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題の都合上、本文を変えているところがあります。)

沙耶ちゃんはオレンジ、わたしはブルー。

ゴムボートにひっくり返り、投げだした足をバタバタさせて笑っているわたしたちの顔には、色違いのおもちゃのサングラスがのっている。

しかもそのガラスの面にはうずまきが描いてあり、かけるともれなくへんてこりんな顔になる。

ちよつと前に、ボート小屋の前で日光浴していた金髪と赤毛のカップルが、

「これ、あげる」

と言って、くれたのだ。

「かけてみてよ」

と、赤毛の女が言うので言われたとおりにすると、二人は大笑いして、勝手なことを言いだした。

「はずしちゃだめだぞ」

「やくそくだからね」

そして二人は、砂に足をとられてよろけながら手をふり、通りのほうへと消えていった。

わたしたちはだまって手をふり返し、そのあとボート小屋にふり向いた。

「おばさん、見て。もらっちゃった」

接客中のおばさんは、あきれたような顔をしたただけだったけれど、お客のお姉さんたちにはすぐくうけた。

そして海のおばさんに無理やりかけさせて笑い、また自分たちでかけて笑っていたそのときだった。ざわめく海水浴場のどこかから

「ミツキ」と、わたしの名を呼ぶ声が聞こえた。

わたしは反射的に顔をあげてあたりを見回し、それに反応して沙耶ちゃんもきよろきよろした。

「何？」

「ううん」

わたしは肩をすくめて、首を横にふった。

「ミツキ」という名前はそんなによくある名前ではないけれど、「イツキ」とか「ミュキ」とか、聞き違えやすい名前はいくつかある。今までも病院やら学校やら、街中でも名前を呼ばれたと思ってふり返り「違った……」という経験を何度かしている。

だから海水浴場でも、同じことが起こるのは当然——。と、思ったそのときだった。ヤシの葉で編んだつばの広い帽子をかぶり、大きな荷物をかかえた女の人がこつちに走ってくるのが見えた。そして、その人が着ているオレンジ色のワンピースには見覚えがあり、わたしはびくつと緊張した。

(ママ……?)

と同時に、沙耶ちゃんの体にもぴりつと、電気のようなものが走るのがわかった。わたしたちを包んでいた、だるくゆるんだまあるい空気が、一瞬のうちにぱりんとかたく緊張する。

(沙耶ちゃん)

わたしは沙耶ちゃんに手をのばした。けれど、沙耶ちゃんに手が届く前に体がゆれて、飛びついてきたママの腕の中にいた。あわててママの手をふりほどいてはなれる。

「やだ、やめてよ」

けれどママはひるむことなく、ハイテンションでわたしの頬を両手で包む。

「うわー焼けたわねー、美月。元氣そう！ 突然でおどろいた？ 急きよ休みが取れたのよ」
ママはそう言うのと、ポート小屋から顔を出した海のおばさんに気がついてかけ寄った。

「あ、ごめんなさい、連絡もしないで突然来ちゃって。——ていうのもね、こっちも突然言われたのよ。今朝入社したら『きのうの休日出勤の分、振替で休んでよかったのに』って。だったら、きのう言っというてよ、でしょう？ ③ しゃくにさわるから会社出て、そのままおみやげとこの帽子買いこんで、電車に飛び乗っちゃったってわけ。で、この時間だったら、海だなあと思って」
ママの話は長く続いた。

その間、沙耶ちゃんはだまって、ずっとママのを見ていた。わたしは突然現れたママのことを、どう沙耶ちゃんに説明しようかと、居心地の悪い思いでいた。そうするうちに、ママはふり向き笑顔でもどつてくると、沙耶ちゃんに話しかけた。

「沙耶ちゃんでしょ？」

いきなり親しげな口調で呼ばれ、沙耶ちゃんは、ぱちりとまばたきをしてから、

「……はい」

と答えた。

同時にママは、デパートの大きな紙の手さげから、はっと目をひくビニールバッグを取りだした。ゼリーみたいに透明なそのピンク色のバッグは、全面にもっとこいピンク、オレンジ、ブルーにイエロー、ラメの銀と白、大きささまざまな立体感のあるハートが重なり合って散らばっている。

「はい、これおみやげ」

「え？ わたしに？」

沙耶ちゃんは、おどろいた顔でママとわたしを半々に見た。

「いつも美月と仲良くしてくれてありがとね。どうかしら？ 気に入ってくれるといいんだけど。これ、店員さんが言うには、この夏、女の子に人気ナンバーワンのデザインなんだって。スイミングに通うときにでも使っちゃおうだよ」

④ わたしはおどろいてママを見た。

「——なんでそんなこと知ってるの？ わたし、なんにも話してないのに」

ここに来て間もなく、携帯の充電が切れた。それきりポストンバッグに放りこんで、わたしは携帯にさわっていない。いつだったか夕食どきに、おばさんのところにママから電話があったけれど、あとでおばさんに注意されるくらい、たいした話はしなかった。

なぜって、わたしはおこっているから。いつだって相談なく勝手になんでも決めることをわたしはおこっている。それを態度でママに伝えようとしているのだ。

そして、沙耶ちゃんと出会って仲良くなっていくうちに、また別の気持ちも生まれた。くわしいことは何も知らないけれど、この町に沙耶ちゃんのパママはいない。だから、わたしも沙耶ちゃんと同じでいよう。わたしも、ここにいる間は沙耶ちゃんと同じ。そう思った。

だから、沙耶ちゃんとのいろんなことを、ママに報告なんかしていない。そのことを沙耶ちゃんに伝えたかった。わたしは、沙耶ちゃんと同じ場所で同じ気持ちでいるんだ……と。

すると、ママは、いつもの調子でけろりと言った。

「そうよ、だからおばさんに電話で教えてもらったの。ほんとにまったくひどいのよ。美月ったら全然メールもくれないし、電話だつてしてこないんだから」

後半の言葉をママは、沙耶ちゃんに向かって言い、沙耶ちゃんは困ったように微笑んだ。

それから沙耶ちゃんは、手わたされたビニールバッグを少しの間じっと見た。微笑んでいるのにその顔は、なんだか悲しそうに見える。

「いいバッグだね。とつてもきれいな。やっぱり東京のは、すてきな」

「よかった。気に入ってくれたのね」

唇の端をきゅつとあげて笑うママに、沙耶ちゃんはずき、礼儀正しく返事をした。

「はい、とつても。ありがとうございます」

それから小さな声で「……だけど」とつぶやき、ママの手にビニールバッグを返した。

「え……? どうして?」

沙耶ちゃんは首をかしげるようにしてまばたきをすると、ママから目をそらした。

「……じいちゃんに、しかられるから」

と、うつむいた。

「だって……、これはお礼だし……おみやげだから」

ビニールバッグを受け取らせようとするママに、沙耶ちゃんは首を横にふった。手をかくすように後ろで組むと、一歩一歩とあとずさった。

それからわたしを見て、いつもなら一時間はあとに言うせりふを言った。

「じゃ、わたし、そろそろ帰るね」

「なんで?」

わたしは ⑦ 強く言った。

「まだ早いじゃない。海で泳ごうよ。岩場に行こうよ。チョウチョウオやクマノミをさがしに行こうって行ったじゃない」

わたしは、このまま沙耶ちゃんを行かせたくなかった。

くらくらする日差しの中、見えないクモが糸を編み、透明なカーテンを張っていく。わたしたちをへだてていく。

けれど沙耶ちゃんは ⑨。

「今日はプールでいっぱい泳がされたんだよね。だから、なんかつかれちゃった……」

と言って、ゆっくり背中を向けた。

引き止めようとするわたしの気配をふり切るように、**A** 助走をつけて走りだした。それから、少しはなれてくるりとわたしにふり返ると、大きく一回手をふった。

けれど沙耶ちゃんは、いつものように「あしたね」とは言わなかった。だからわたしは手をふらなかつた。

心臓がくつと縮んで涙があふれ、頬をつたって流れ落ちた。遠のいていく沙耶ちゃんのとを追いかけるかわりに、わたしは海に向かって歩きだした。こんな顔は、ママにも、海のおばさんにも見られたくない。

B 水しぶきをあげて腰の位置まで海に入ると、**C** シャがんでしずんだ。浅瀬の海水は涙のように生ぬるい。

わたしは思いきり **D** 音を立てて、水に顔をつけると、足の下の砂地を蹴って膝をかかえた。そして沖にかぶ玉うきのように小さく体を丸めて、息が続く間、波にゆられることをくり返した。

(薫くみこ「ぜんぶ夏のこと」の文章による)

問1 ——線部①「同じこと」とは具体的にどのようなことか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 自分の名前と聞き間違えやすい名前があること。
- ロ 自分の名前を他の名前と言い間違えられたこと。
- ハ 自分の名前と他の人の名前を聞き間違えること。
- ニ 自分の名前を呼ばれたと思って返事をする事。

問2 ——線部②「だるくゆるんだまあるい空気」とは具体的にどのような雰囲気ふんいきを表しているか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 大人たちとは関係なく自由に過ごす子供だけの長い休みの雰囲気。
- ロ ふざけたり笑ったりしながらのんびり過ごせる長い休みの雰囲気。
- ハ ばかみtainなことこそ価値があると思える長い休みの雰囲気。
- ニ だらだらして働かなくても許されるような長い休みの雰囲気。

問3 ——線部③「しゃくにさわる」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 恐縮きょうしゆく
- ロ 仰天ぎょうてん
- ハ 失望
- ニ 立腹

問4 ——線部④「わたしはおどろいて」とあるが、「わたし」はなぜ「おどろい」たのか。その理由として当てはまらないものを次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 沙耶ちゃんがスイミングに通っていることをママが知っていたから。
- ロ 美月と沙耶ちゃんが友達同士だということをママが知っていたから。
- ハ 沙耶ちゃんの欲しい人気のビニールバッグをママが知っていたから。
- ニ 美月の隣となりにいる女の子の名が沙耶ちゃんだとママが知っていたから。

問5 ——線部⑤「同じ場所で同じ気持ち」とはどのような気持ちか。次の説明文の【】に当てはまるように、十字以上十五字以内で考えて答えなさい。

【この町にいる間は】

【という気持ち。】

問6 — 線部⑥「お礼だし」とあるが、何の「お礼」か。その内容が具体的にわかる一文を文章中から探し、初めの四字をぬき出して答えなさい。

問7

⑦

⑨

に当てはまる慣用句として最も適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい。

- ⑦ イ 口を滑^{すべ}らせて ロ 眉^{まゆ}をひそめて ハ 耳をすませて ニ 目を光らせて
- ⑨ イ 頭をかかえた ロ 固^{かた}唾^{つば}をのんだ ハ 肝^{きま}をつぶした ニ 首をすくめた

問8 — 線部⑧「見えないクモが糸を編み、透明なカーテンを張っていく。わたしたちをへだてていく」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「見えないクモが糸を編み、透明なカーテンを張っていく」とはどのような様子を表しているか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ おたがいに相手を遠ざけていく様子。 ロ 二人の気持ちに距離^{きょり}ができていく様子。
- ハ おたがいに気持ちが離^{はな}れていく様子。 ニ 二人の関係が完全にこわれている様子。

(2) 「わたしたちをへだてていく」とあるが、その原因となっているものは何か。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 美月のママが娘にかけている深い愛情。 ロ 沙耶ちゃんのパパがなくなったという現実。
- ハ 美月と沙耶ちゃんの育った土地の違い。 ニ 沙耶ちゃんに対する祖父のしつけの厳しさ。

問9 【A】〜【D】に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。(同じ記号は二度使えない。)

- イ びしゃんと ロ さぶさぶ ハ ひたひた ニ ぴよんと ホ すっと

問10 — 線部⑩「わたしは手をふらなかった」のはなぜか。その理由を四十字以内で答えなさい。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題の都合上、本文を変えているところがあります。よみがなは現代仮名づかいにしてあります。*のついた説明は出題者が加えたものです。)

わたしは、通勤電車の座席に座って、居眠りをしていました。めざめると、すぐ目の前に立つ男が、スポーツ新聞をひろげていました。

この状況を、わたしの肉眼カメラで写すと、どのような歌になるでしょうか。

I めざめれば腕ぐみの腕まぶたあげればベルトの上が東スポだった

斉藤斎藤 (歌集未収録)

東スポ……スポーツ新聞の名。

「目の前に立つ男が、スポーツ新聞をひろげていた」を、肉眼カメラに変換すると、「A」となります。座っているわたしには、ベルト付近のズボンと、その上のスポーツ新聞だけが見えている。わたしの視野がそのまま、書かれています。

肉眼カメラでは、視野の外にあるものや、より手前にある物に遮られて見えないものを書いてはいけません。ですのでこの歌では、「男が新聞をひろげていた」と、書いてはいけません。なぜなら、上半身は新聞に遮られて、わたしに見えていない。「男が」と書いてしまえばそれは写生^①ではなく、見えない上半身を想像で補った、フィクション (つくりごと) の歌になってしまいます。

もちろん、紳士もののベルトの上にスポーツ新聞が見えれば、ふつうに考えてそれは男性です。でもひよつとすると、新聞の向こう

には紳士服を着た女性が隠れていたかもしれませんが、実はこれ、下半身だけのマネキンに新聞が貼りつけられたオブジェ (物体) だったのかもしれない。かもしれないのに、新聞の向こうを見もしないで「男が」と書くとなれば、それは事実を書いているのではない。B 虚構 (つくりごと) よりも C 虚構を選んでいるに過ぎないのです。

肉眼に見えているものだけを書くこと。それは見てもいないものを、どうせこうだと決めつけたくないことです。わたしに見えていないところで、ふつうの事しか起こっていないと決めつけたくないということです。

わたしにまだ見えていない世界にドキドキしつつづけるため、見えるものだけを見て書きましょう。見えていないものは決して書かないよう、注意しましょう。

II 安売りの立て看板をよけながら調布銀座に自転車が過ぐ

村田 馨 「短歌人」二〇一〇年一月号

ごみごみして活気のある商店街を、自転車が右に左にハンドルを切りながら、ゆっくり通り抜けてゆく。情趣のある光景が切り取られています。しかし「写生」という観点では、^②すこし問題があります。肉眼カメラが商店街のどこに位置しているのか。わからないのです。

「自転車が過ぐ (過ぎる)」と書いてあるので、肉眼カメラには、自転車が過ぎて行く D が見えつづけていなければなりません。しかし、この商店街に立っているひとりの人の肉眼に、走り抜けてゆく自転車は、ずっと見えつづけるでしょうか。道にはみ出した看板やワゴンや人混みにさえぎられて、自転車は見えたり隠れたりするはずです。「自転車が過ぐ」という表現は、看板などに隠れているときの自転車を、想像で補ってしまっています。

(たとえば、ミチゾイのビルの5階の窓からなら、過ぎてゆく自転車が見えつづけるかもしれませんが、立て看板の「安売り」の文字が見えなくなってしまう。)

ですのでこの歌では、商店街に3台ほどカメラを置いて撮った映像を、なめらかにつなぎあわせるような、応用テクニックが用いられていることになります。この歌を、肉眼カメラでカイクサクしてみましよう。たとえば、

Ⅲ 安売りの看板に見え隠れして調布銀座を自転車は来る

とすれば、カメラは自転車の E に立っているとわかりますし、

Ⅳ 安売りの立て看板をよけながら調布銀座を自転車はゆく

とすれば、カメラは F から自転車を見送る位置にあると、はつきり定まります。(中略)

V 建物のなかに明るく階段がつづきたる夜を虫しげく鳴く

玉城 徹「膠木」

街灯のない暗い道があるいてゆくと、建物の入り口が照らされて、階段だけがあかるく浮かび上がっていたのでしよう。

「建物の」が絶妙です。^③ここでは「ビルの」「マンションの」と書いてはいけません。あたりは夜ですし、しかも肉眼カメラは入り

口からわりと近いところにいるので、建物の全体は見えていない。見えていないのだから「ビル」「マンション」ではなく、なにかはよくわからないけどデッキリンの、やや大きめの「建物」と、ばくせんと書かれているのです。

また、「つづきたる」も、肉眼そのままであるがゆえの、ふしぎな表現です。ふつうに考えれば、階段は十何段かつづいてから踊り場で折り返すのでしようが、肉眼カメラに踊り場は見えていない。見えていないから、「踊り場で折り返す」とも「どこまでもつづいてゆく」とも書かずに、「つづきたる」と、ふわっと書いています。(こむずかしく言うと、「つづきたる夜を」という意味のつながりきらない接続が、「つづきたる」に連体終止のニュアンスを加えて、ふわっとします。)

見えていない踊り場を想像せず、見えている範囲を「階段がつづきたる」と、見たまんま書く。そのことでもかえって、ありふれた建物の入り口が、天国までもつづいてゆきそうな、異界への扉にも見え、時間が止まったようにも感じられます。しかし、そんな錯覚は一瞬で終わり、現実の虫の声が聞こえて我に返る。永遠の手ざわりだけが、わたしに残されます。

肉眼カメラの扱いに慣れてくると、肉眼では見えない世界が、写ってしまうこともあります。

(斉藤斎藤 NHK短歌二〇一三年六月号「初心者になるための短歌入門」の文章による)

問1 A に当てはまる表現を、Iの短歌からぬき出して答えなさい。

問2 ——線部①「写生」とはどのようなことか。それを説明した二十字以内の一文を、これより後の文章中から探し、初めの三字をぬき出して答えなさい。

問3 ~~~~~線部「もちろん」が直接かかる言葉はどれか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

・ もちろん、紳士もののベルトの上にスポーツ新聞が見えれば、ふつうに考えてそれは男性です。

問4 B C に当てはまる語の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ B おおざっぱな C 繊細な
 ロ B ちっぽけな C 壮大な
 ハ B とつびな C 平凡な
 ニ B はんばな C 完璧な

問5 ——線部②「すこし問題があります」とあるがなぜか。その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 見えている世界を書いてはいるが想像で補っている部分もあるから。
 ロ 見てもいないものを、事実とは違う光景に描いてしまっているから。
 ハ 見えていない世界にはふつうの事しか起こっていないと思っっているから。
 ニ 見えている範囲のみを、見たまま書くだけになってしまっているから。

問6 D に当てはまる四字熟語を次の漢字を使って作り、三番目にくる漢字の記号を選んで答えなさい。

- イ 一 ロ 千 ハ 日 ニ 始 ホ 部 ヘ 終

問7 E F に当てはまる言葉として適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 西方 ロ 後方 ハ 垂直方向 ニ 進行方向

問8 Vの短歌に詠まれている季節を、漢字一字で答えなさい。

問9 ——線部③「ここでは『ベルの』『マンシヨンの』と書いてはいけません」とあるが、なぜいけないのか。その理由を二十五字以内で答えなさい。

問10 — 線部④「永遠の手ざわりだけが、わたしに残されます」とはどのようなことをたとえているのか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ ありふれた建物の入り口が天国への扉にも見えて、虫の声と共に時間が止まったように感じられたということ。
- ロ 見たままを書きることによって、かえって現実をこえた想像の世界が一瞬見えたような感じがしたこと。
- ハ 見たまま書いていくうちに、いつのまにか現実の世界が夢の世界にまで広がっていく感じがしたこと。
- ニ 見えていない踊り場を想像することによって、天国につづいてゆく異界への扉にふれた感じがしたこと。

問11 — 線部①「ミチゾ（い）」、②「カイサク」、③「テッキン」のカタカナをそれぞれ漢字に直しなさい。

